



「あ」じゃなくて「お」

冷蔵庫を一定時間、開けっ放しにしておくと、「ピーピー」と音が鳴りますね。あの音を聞くと、「早く閉めなきゃ」と思い、卵をパックから冷蔵庫に移している途中にもかかわらず、作業を中断していったん扉を閉めてから、再び卵を移し替える日本人の、なんと多いことでしょう。私は、いったん閉める必要はないと思っています。あの音は、冷蔵庫の扉を閉めたつもりが、実は閉まってなくて、それに気づいていない人へお知らせするために鳴っているのであって、わざと開けたままにして卵を移し替えている場合は、「分かっとなら」と一言言って、そのまま作業を続けられればいいと思います。とは言うものの、家族からの「冷蔵庫鳴ってるやん、早よ閉めて」という言葉には口答えできるはずもなく、結局、冷蔵庫の扉をいったん閉める羽目になってしまう日本人の、なんと多いことでしょう。

最近の洗濯機は、洗濯が終わってしばらく洗濯物を取り出さなかったら、扉を開けた時、「取り出しはお早めに」と音声で注意してくるものもあります。そうかと思えば次の日、終わってすぐに取り出すと、「早めに取り出してくれてありがとう」と褒めてくれたりします。注意されたり褒められたり…、どっちが使われているのか分からなくなります。でも、まあ電化製品にでも褒められると嬉しいものです。

英国の元首相チャーチルさんは幼い時に、成績表の所見にこんなことを書かれていたそうです。「遅刻の常習犯です。とにかくいろいろな物をなくします。だらしなさは完璧です。私にはどうしたらいいかわかりません」。成績はクラスで最下位だったそうです。元ビートルズのジョン・レノンさんが高校の頃に書かれた所見は、「間違いなく失敗に向かっている。クラスの道化で、他の生徒の時間を浪費させている。絶望的」。お二人とも、子どもの頃はあまり褒められた経験がなさそうな感じがしますが、大人になってからの活躍は言うまでもありません。褒められて伸びる子もいれば、叱られて成長する子もいます。

子どもへの褒め方や叱り方が将来に与える影響について、神戸大学と同志社大学が調査をしました。子どもの頃の叱られ方について「次は頑張ろうね」「どうしてできないの」「罰を与えられた」の3グループに分類し、成人後の自立心や計画実行能力にどういう影響を与えるかを調べたところ、「次は頑張ろうね」と励ました方が、原因を追求したり罰を科したりするよりも良い影響を与え、褒め方については、褒美を与えるよりも、「頑張ったね」と努力を評価した方が良い影響を与える、という結果が出たそうです。褒めることも叱ることも子どもには必要です。大切なのは、その「言い方」ということでしょう。

幼稚園の男の子がある時、母親にこんなことを言います。「『あ』じゃなくて『お』。『あ』って言わないで『お』って言って」。これは息子からの心のメッセージでした。「あ」の後には否定的な言葉が続きます。「あっ、またー」「あっ、もう」。一方「お」の後には相手を認め、称賛する言葉が来ます。「おーすばらしい」「おー頑張ったね」。今月で1学期が終わります。終業式の日には成績表「あゆみ」をお渡しします。持って帰ってきた「あゆみ」を開いての第一声は、「あっ」にしますか？それとも「おっ」にしますか？



上げたけりゃ 短冊書くより 漢ド書け

(校長 河合 康一)